

「ペットの災害対策アンケート」回答集計

調査方法： すみだまつり（令和5年9月30日、10月1日）、総合防災訓練（令和5年11月19日）、猫との暮らし方講座（令和5年10月22日）の現地にてアンケート用紙を配布し回収

動物たちの写真展（令和5年9月19日～9月24日）の人気投票の際に電子申請（Logo フォーム）によるアンケートを実施

集計数：ペットを飼っているかた 199 人からいただいた回答をもとに集計しています。（犬に限定した質問では、犬を飼っているかた 87 人の回答をもとにしています。）

問1 飼っている動物を教えてください。

回答項目	件数	件数/回答者
犬	87	43.7%
猫	98	49.2%
その他	28	14.1%

「その他」では、小鳥、魚、ハムスターなどといった回答がありました。

問2 ペットの健康管理はどのようなことを行っていますか。（複数回答可）

回答項目	件数	件数/回答者
各種ワクチンを接種する	147	73.9%
決められた場所で排泄ができるようにする	139	69.8%
不妊去勢措置を行う	131	65.8%
シャンプーやトリミングにより身体を清潔に保つ	107	53.8%
寄生虫の予防、駆除をする	101	50.8%
ケージなどの中に入ることを嫌がらないように日頃から慣らしておく	80	40.2%
人や他の動物を怖がったり攻撃的にならないように慣らしておく	76	38.2%
（犬を飼っているかた 87 人に聞きました） 「待て」「おいで」「お座り」「伏せ」などの基本的なしつけをする	77	88.5%
（犬を飼っているかた 87 人に聞きました） 不必要に吠えないようにしつける	46	52.9%
特に行っていない	6	3.0%
その他	6	3.0%

ペットの健康管理については「「待て」等の基本的なしつけをする」、「決められた場所での排泄ができるようにする」、「各種ワクチン接種をする」、「不妊去勢措置を行う」は割合が高い一方で、「ケージなどの中に入ることを嫌がらないように日頃から慣らしておく」、「人や他の動物を怖がったり攻撃的にならないように慣らしておく」は半数以下でした。

避難所でのペットの飼育においては、人や他の動物を怖がったり、むやみに吠えたりしないこと、ケージやキャリーバッグに慣れていること、決められた場所で排泄ができることなどが重要です。ペットのしつけは、他人への迷惑となる行動を防止するとともに、ペット自身のストレスも軽減することにつながります。

問3 ペットが行方不明にならないための対策をしていますか。

回答項目	件数	件数/回答者
(犬を飼っているかた 87 人に聞きました) 鑑札、狂犬病予防注射済票をつけている	36	41.4%
マイクロチップを挿入している	68	34.2%
首輪と迷子札をつけている	55	27.6%
特に対策はしていない	60	30.2%

ペットが行方不明にならないための対策として、特に何も対策していないという回答が3割以上ありました。

災害時にはペットと離れ離れになってしまう場合もあります。鑑札や迷子札、マイクロチップを装着することで万一はぐれた場合でも飼い主の元に戻る可能性を高めることができます。

なお、犬を飼っている場合、鑑札（マイクロチップの場合もあり）と狂犬病予防注射済票は必ず装着しましょう。また、マイクロチップについては、令和4年6月に「改正動物愛護管理法」が施行され、販売される犬や猫へのマイクロチップの装着・登録が義務づけられています。

問4 ペットの避難用品や備蓄品はどのようなものを確保していますか。

回答項目	件数	件数/回答者
ペットフード、水	151	75.9%
キャリーバッグやケージ	126	63.3%
排泄物の処理用具（ペットシート、トイレ用品等）	119	59.8%
食器	70	35.2%
予備の首輪、リード（伸びないもの）	64	32.2%
療法食、薬	33	16.6%
確保していない	14	7.0%
その他	0	0%

避難用品や備蓄品の確保については、ペットフード、水などの食料、キャリーバッグやケージ、ペットシート、トイレ用品などの避難用品は高い割合で確保できている一方で、特に準備をしていないといった回答も7%程度ありました。

避難所においてペットの飼養に必要なものは、飼い主の方に用意していただくようお願いしています。動物の健康や命にかかわるものを優先にペットフードや水は少なくとも5日分は用意しておきましょう。特に療法食などの特別食を必要としているペットの場合は、さらに長期間分の用意が必要となります。

問5 墨田区では区内のすべての避難所で、ペットの「同行避難」が可能なことをご存じですか。

回答項目	件数	件数/回答者
はい	61	32.4%
いいえ	127	67.6%

同行避難の認知度については3分の一程度でした。墨田区では、区内すべての避難所でペットの同行避難を可能としています。今回の結果を踏まえて、更なる周知に努めていきます。

災害時に飼い主とペットが共に災害を乗り越えるためには、日頃の備えが欠かせません。今回のアンケート結果を通じて、ペットの災害対策について改めて考えていただけるよう啓発していきます。また、本区の「避難所におけるペットの救護に関するマニュアル」の改訂に反映させるほか、同行避難訓練の実施に向けた検討を行います。